

8. 「小児肺炎全国疫学調査」

玉腰 暁子（名古屋大学大学院医学系研究科・予防医学/医学推計・判断学）、
広田 昌彦（熊本大学大学院医学薬学研究部）、
大槻 眞（産業医科大学・第三内科）

9. 「線維筋痛症全国疫学調査」

玉腰 暁子（名古屋大学大学院医学系研究科・予防医学/医学推計・判断学）
前田 伸治（名古屋大学大学院医学研究科）、
松本 美富士（山梨県立看護大学短期大学部人間・健康科学）

10. 「進行性腎障害4疾患の推計患者数」

清原 康介、川村 孝（京都大学・保健管理センター）、
若井 建志（愛知県がんセンター・疫学予防）、
玉腰 暁子（名古屋大学大学院医学系研究科・予防医学/医学推計・判断学）、
遠藤 正之、堺 秀人（東海大学医学部・腎代謝内科）、
富野 康日己（順天堂大学医学部・腎臓内科）

11. 「多発性硬化症の全国疫学調査成績」

坂田 清美（和歌山医科大学医学部・公衆衛生学）、
小副川 学、越智 博文、村井 弘之、吉良 潤一（九州大学大学院医学研究院・神経科）、
玉腰 暁子（名古屋大学大学院医学系研究科・予防医学/医学推計・判断学）、
稲葉 裕（順天堂大学医学部・衛生学）

----- 休憩 10分 -----

司 会：永井 正規

14:45～16:15

12. 「臨床調査個人票の有効利用」

坂内 文男、森 満（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

13. 「特定疾患治療研究事業による臨床調査個人票をもとにしたクロイツフェルト・ヤコブ病のサーベイランス結果」

渡邊 至、中村 好一（自治医科大学・公衆衛生学教室）、
山田 正仁（金沢大学大学院・医学系研究科）、
水澤 英洋（東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科）

14. 「疾患別・性・年齢別受給者数の18年間の変化」

太田 晶子、仁科 基子、柴崎 智美、石島 英樹、泉田 美知子、永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

15. 「13年間に性比が上昇した疾患についての検討」

石島 英樹、仁科 基子、柴崎 智美、太田 晶子、泉田 美知子、永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

16. 「2002年度地域保健・老人保健事業報告による全国特定疾患医療受給者の実態把握」

太田晶子、仁科基子、柴崎智美、石島英樹、泉田美知子、永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

17. 「2002年度特定疾患医療受給者の地域格差（保健所別）の検討」

仁科基子、柴崎智美、太田晶子、石島英樹、泉田美知子、永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

司 会： 簗輪 真澄

16:15～17:00

18. 「32特定疾患患者の主観的健康(QOL)プロフィール」

三徳和子（川崎医療福祉大学・医療福祉学部）、
松田智大、杉江拓也（国立保健医療科学院・疫学部）、
新城正紀（沖縄県立看護大学・公衆衛生学・疫学）、
坂田清美（和歌山医科大学・公衆衛生学）、
平良セツ子（沖縄県宮古保健所）、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）、
簗輪真澄、土井由利子（国立保健医療科学院・疫学部）

19. 「神経難病患者において包括的QOLが治療や保健福祉サービスに対する満足度に与える影響の考察」

松田智大（国立保健医療科学院・疫学部）、
眞崎直子（福岡県久留米保健所）、
平良セツ子（沖縄県宮古保健所）、
三徳和子（川崎医療福祉大学・医療福祉学部）、
杉江拓也（国立保健医療科学院・疫学部）、
坂田清美（和歌山医科大学・公衆衛生学）、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）、
新城正紀（沖縄県立看護大学・公衆衛生学・疫学）、
簗輪真澄、土井由利子（国立保健医療科学院・疫学部）

20. 「脊髄小脳変性症のQOL」

眞崎直子（福岡県久留米保健所）、
松田智大（国立保健医療科学院・疫学部）、
三徳和子（川崎医療福祉大学・医療福祉学部）、
新城正紀（沖縄県立看護大学・公衆衛生学・疫学）、
坂田清美（和歌山医科大学・公衆衛生学）、
永井正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）、
平良セツ子（沖縄県宮古保健所）、
杉江拓也、簗輪真澄、土井由利子（国立保健医療科学院・疫学部）

— 12月16日(木) 9:30~12:00 —

今年度の研究成果の発表

9:30~12:00

司 会：縣 俊彦

9:30~10:45

21. 「患者調査に基づく特定疾患患者受療率および総患者数の推計」

箕輪真澄、土井由利子、杉江拓也、松田智大、(国立保健医療科学院・疫学部)

22. 「和歌山県における既存資料を用いた筋萎縮側索硬化症発症関連要因に関する疫学的研究」

紀平為子、近藤知善(和歌山県立医科大学・神経内科)、
岡本和士(愛知県立看護大学・公衆衛生学)、
阪本尚正(兵庫医科大学・衛生学)、
小橋 元(北海道大学大学院医学研究科・予防医学講座・老年保健医学)、
鷺尾昌一(札幌医科大学・公衆衛生学)、
三宅吉博(福岡大学医学部・公衆衛生学)、
横山徹爾(国立保健医療科学院・技術評価部)、
佐々木 敏(独立行政法人国立健康・栄養研究所・栄養所要量策定企画・運営)、
稲葉 裕(順天堂大学医学部・衛生学)

23. 「特発性心筋症の予後調査」

中川秀昭、三浦克之、曾山善之、森河裕子(金沢医科大学・健康増進予防医学)、
松森 昭(京都大学大学院・循環病態学)、
北畠 顕(北海道大学大学院・循環病態学)、
稲葉 裕(順天堂大学医学部・衛生学)

24. 「個人情報保護と定点モニタリング研究」

縣 俊彦、清水英佑、松平 透、佐野浩斎、中村晃士、西岡真樹子(東京慈恵会医科大学・環境保健医学教室)、
新村真人(東京慈恵会医科大学・皮膚科)、
大塚藤男(筑波大学臨床医学系・皮膚科)、
稲葉 裕、黒沢美智子(順天堂大学医学部・衛生学)、
古村南夫、中山樹一郎(福岡大学医学部・皮膚科)、
三宅吉博(福岡大学医学部・公衆衛生学)、
高木廣文(新潟大学医学部)、
金城芳秀(沖縄県立看護大学)、
李廷秀(東京大学医学部・健康増進科学)、
柳 修平(東京女子医科大学)、
河 正子(東京大学医学部・ターミナルケア学)

25. 「特定複数施設患者における特発性大腿骨頭壊死症の記述疫学」

福島若葉、田中隆、廣田良夫(大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学)、
竹下節子(東海大学福岡短期大学・情報処理学科)

26. 「炎症性腸疾患の脂肪酸バランス失調説のエビデンスに関する文献的考察」

片平 洸彦（東洋大学社会学部・社会福祉学科）、
小松 喜子（(株)水戸薬局）、
前川 厚子、神里みどり（名古屋大学医学部・保健学科）、
渋谷 優子（藤田保健衛生大学・衛生学部）、
山崎 京子（茨城キリスト教大学・衛生学部）、
藤井 京子、伊藤美智子（社会保険中央総合病院）、
積美 保子（日本看護協会看護研修学校）、
小橋 元（北海道大学大学院医学研究科・老年保健医学）、
太田 薫里（千葉大学大学院医学研究科・公衆衛生学）、
中村 眞、内山 幹（東京慈恵会医科大学附属柏病院・消化器肝臓内科）、
白石 弘美（東京慈恵会医科大学付属病院・栄養部）、

27. 「炎症性腸疾患において脂肪酸栄養療法、薬物療法における多変量解析による検討」

中村 眞、内山 幹（東京慈恵会医科大学附属柏病院・消化器肝臓内科）、
白石 弘美（東京慈恵会医科大学付属病院・栄養部）、
丸尾 さやか（東京慈恵会医科大学附属病院・ソーシャルワーカー）、
桜井 俊之（東京慈恵会医科大学附属柏病院・消化器肝臓内科）、
片平 洸彦（東洋大学社会学部・社会福祉学科）

28. 「炎症性腸疾患（IBD）患者の年齢階級別・性別によるQOL」

神里みどり、前川 厚子（名古屋大学医学部・保健学科）、
小松 喜子（(株)水戸薬局）、
片平 洸彦（東洋大学社会学部・社会福祉学科）、
渋谷 優子（藤田保健衛生大学・衛生学部）、
山崎 京子（茨城キリスト教大学・衛生学部）

29. 「就学中のIBD患者における日常の困難度と生活ニーズ」

前川 厚子、神里みどり、安藤 詳子、竹井 留美、楠 神和男、安藤 貴文、
後藤 秀実（名古屋大学医学部）、
小松 喜子（(株)水戸薬局）、
渋谷 優子（藤田保健衛生大学・衛生学部）、
山崎 京子（茨城キリスト教大学・衛生学部）、
藤井 京子、伊藤美智子、積美 保子、高添 正和（社会保険中央総合病院）、
小橋 元（北海道大学大学院医学研究科・老年保健医学）、
太田 薫里（千葉大学大学院医学研究科・公衆衛生学）、
中村 眞、内山 幹（東京慈恵会医科大学附属柏病院・消化器肝臓内科）、
白石 弘美（東京慈恵会医科大学付属病院・栄養部）、
片平 洸彦（東洋大学社会学部・社会福祉学科）

主任研究者のまとめ

11:45~12:00

VII. 添 付 資 料

添付資料一覧表

添付資料Ⅰ 線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班との共同研究による線維筋痛症の全国疫学調査様式

- 様式Ⅰ-1 一次調査依頼状
- 様式Ⅰ-2 線維筋痛症の分類基準（米国リウマチ学会分類基準1990年）
- 様式Ⅰ-3 線維筋痛症有病者数全国一次調査用紙-1
- 様式Ⅰ-4 一次調査督促状
- 様式Ⅰ-5 線維筋痛症有病者数全国一次調査用紙-2
- 様式Ⅰ-6 二次調査依頼状（報告患者数20例以上の施設用）
- 様式Ⅰ-7 線維筋痛症患者の抽出法（別紙1）
- 様式Ⅰ-8 線維筋痛症抽出状況調査票（別紙2）
- 様式Ⅰ-9 二次調査依頼状（報告患者数20例未満の施設用）
- 様式Ⅰ-10 線維筋痛症全国疫学調査[第二次調査個人票の”調査対象者番号”とカルテ番号対応表]
- 様式Ⅰ-11 線維筋痛症全国疫学調査第二次調査個人票
- 様式Ⅰ-12 二次調査督促状

添付資料Ⅱ 難治性膵疾患に関する調査研究班との共同研究による小児急性膵炎の全国疫学調査様式

- 様式Ⅱ-1 一次調査依頼状
- 様式Ⅱ-2 急性膵炎臨床診断基準、急性膵炎の重症度判定基準と重症度スコア、急性膵炎のStage分類
- 様式Ⅱ-3 小児急性膵炎全国疫学調査票-1
- 様式Ⅱ-4 一次調査督促状
- 様式Ⅱ-5 小児急性膵炎全国疫学調査票-2

添付資料Ⅲ 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班との共同研究による（仮称）潜在性または不顕性クッシング病と（仮称）ACTH分泌をしないACTH産生下垂体腺腫の全国疫学調査様式

- 様式Ⅲ-1 一次調査依頼状

- 様式Ⅲ-2 (仮称)潜在性または不顕性クッシング病と(仮称)ACTH分泌をしないACTH産生下垂体腺腫の判定の手引き
- 様式Ⅲ-3 有病者数全国一次調査用紙-1
- 様式Ⅲ-4 一次調査督促状
- 様式Ⅲ-5 有病者数全国一次調査用紙-2
- 様式Ⅲ-6 二次調査依頼状
- 様式Ⅲ-7 (仮称)潜在性または不顕性クッシング病と(仮称)ACTH分泌をしないACTH産生下垂体腺腫第二次調査個人票
- 様式Ⅲ-8 (仮称)潜在性または不顕性クッシング病と(仮称)ACTH分泌をしないACTH産生下垂体腺腫全国疫学調査[第二次調査個人票の”通し番号”とカルテ番号対応表]

添付資料Ⅳ 免疫性神経疾患に関する調査研究班との共同研究による多発性硬化症の全国疫学調査様式

- 様式Ⅳ-1 一次調査依頼状
- 様式Ⅳ-2 多発性硬化症の診断基準(全国調査用)
- 様式Ⅳ-3 多発性硬化症有病者数全国一次調査用紙-1
- 様式Ⅳ-4 一次調査督促状
- 様式Ⅳ-5 多発性硬化症有病者数全国一次調査用紙-2
- 様式Ⅳ-6 二次調査依頼状
- 様式Ⅳ-7 多発性硬化症の診断基準(全国調査用)及び総合障害度(EDSS)の評価基準、機能別障害度(FS:Functional System)の評価基準
- 様式Ⅳ-8 多発性硬化症全国疫学調査第二次調査個人票
- 様式Ⅳ-9 二次調査督促状

添付資料Ⅴ 免疫性神経疾患に関する調査研究班との共同研究によるクローフカセ症候群の全国疫学調査様式

- 様式Ⅴ-1 一次調査依頼状
- 様式Ⅴ-2 Crow-Fukase症候群の診断基準(有村、神経研究の進歩2003)
- 様式Ⅴ-3 クローフカセ症候群有病者数全国一次調査用紙-1
- 様式Ⅴ-4 一次調査督促状
- 様式Ⅴ-5 クローフカセ症候群有病者数全国一次調査用紙-2

- 様式V-6 二次調査依頼状
- 様式V-7 クロウ・フカセ症候群第二次調査個人票
- 様式V-8 クロウ・フカセ症候群全国疫学調査[第二次調査個人票の”調査対象者番号”とカルテ番号対応表]

添付資料VI 進行性腎障害に関する調査研究班との共同研究によるIgA腎症、急性進行性糸球体腎炎症候群、難治性ネフローゼ症候群、常染色体優性多発性嚢胞腎の全国疫学調査様式

- 様式VI-1 一次調査依頼状
- 様式VI-2 IgA腎症の診断基準、急性進行性糸球体腎炎症候群の診断基準、難治性ネフローゼ症候群の診断基準、常染色体優性多発性嚢胞腎の診断基準
- 様式VI-3 進行性腎疾患有病者数全国一次調査用紙－1
- 様式VI-4 一次調査督促状
- 様式VI-5 進行性腎疾患有病者数全国一次調査用紙－2

添付資料VII モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)に関する調査研究班との共同研究によるモヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)の全国疫学調査様式

- 様式VII-1 一次調査依頼状
- 様式VII-2 モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)の診断の手引き
- 様式VII-3 モヤモヤ病有病者数全国一次調査用紙－1
- 様式VII-4 一次調査督促状
- 様式VII-5 モヤモヤ病有病者数全国一次調査用紙－2
- 様式VII-6 二次調査依頼状(報告患者数20例以上の施設用)
- 様式VII-7 モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)患者の抽出法(別紙1)
- 様式VII-8 モヤモヤ病抽出状況調査票(別紙2)
- 様式VII-9 二次調査依頼状(報告患者数20例未満の施設用)
- 様式VII-10 モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)調査個人票
- 様式VII-11 モヤモヤ病診断アルゴリズム

2004 年 1 月

診療科 責任者様

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）

線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班

主任研究者 西岡 久寿樹

（聖マリアンナ医科大学難治研）

疫学調査担当 松本 美富士

（山梨県立看護大学短期大学部人間・健康科学）

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

特定疾患の疫学に関する研究班 主任研究者 稲葉 裕

（順天堂大学医学部衛生学）

疫学調査担当 玉腰 暁子

（名古屋大学大学院医学系研究科）

拝啓

初春の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）「特定疾患の疫学に関する研究班」と（特別研究事業）「線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班」との共同研究により、わが国における線維筋痛症の実態を把握するために全国疫学調査を実施することとなりました。

つきましては、ご多忙中のところ大変恐縮でございますが、過去 1 年間（2003 年 1 月 1 日～2003 年 12 月 31 日）の貴診療科における該当疾患患者数を同封の葉書にご記入の上、2004 年 2 月末日までにご返送くださいますようお願い申し上げます。なお、線維筋痛症の患者数については同封の米国分類基準を満たす症例数（基礎疾患のない一二次性線維筋痛症、および関節リウマチ等の基礎疾患に伴う二次性線維筋痛症の両者の患者数）について記入下さい。

また、該当する患者がない場合も、全国の患者数推計に必要ですので、葉書の「1. なし」に○をつけ、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

該当する患者ありの場合には、後日個人票をお送りさせていただきますので、あわせてご協力くださいますようお願い申し上げます。

この件に関しましてご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

何卒ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学教室気付
特定疾患の疫学に関する研究班 全国疫学調査事務局
電 話：052-744-2132
F A X：052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ先：〒400-0062 甲府市池田 1-6-1
山梨県立看護大学短期大学部人間・健康科学
線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班
疫学調査担当者 松本 美富士
電 話：055-253-9249 (dial in)
F A X：055-253-9249
E-mail：ymatsumo@ykn.ac.jp

線維筋痛症の分類基準

(米国リウマチ学会分類基準 1990 年)

1. 「広範囲の疼痛」の既往がある。

定義：疼痛は以下のすべてが存在するときに「広範囲の疼痛」とされる。

身体左側の疼痛、身体右側の疼痛、腰から上の疼痛、腰から下の疼痛、さらに体幹中心部痛（頸椎、前胸部、胸椎、腰椎のいずれかの痛み）が存在する。

2. 手指による触診で図に示した 18 カ所の圧痛点部のうち 11 カ所以上に圧痛を認める。

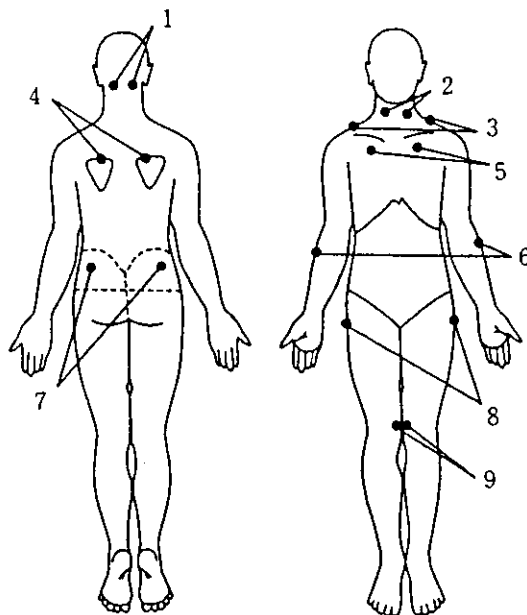
定義：圧痛点部は両側に対称性に存在し、合計 18 カ所となる。

触診は約 4 kg の強さで行う。

患者の触診に際し、「痛くない」、「すこし痛い」、「中くらい痛い」

および「とても痛い」に分けて問い、「すこし痛い」以上であれば圧痛点ありとする。

患者が上記 1 と 2 の両方の基準を満たすとき線維筋痛症と診断できる。なお、「広範囲の疼痛」は少なくとも 3 ヶ月持続する必要がある。



線維筋痛症における特徴的な圧痛点として提唱された 18 カ所の部位

1. 後頭部：後頭下筋の腱附着部
2. 下部頸椎：第 5～第 7 頸椎間の前方
3. 僧帽筋：上縁の中央部
4. 棘上筋：起始部，内縁に近いところで肩甲骨棘部の上
5. 第 2 肋骨：第 2 肋骨－肋軟骨結合部，結合部のすぐ外側
6. 外側上顆：上顆から 2 cm 遠位
7. 臀部：臀部の 4 半上外側部
8. 大転子：転子突起の後部
9. 膝：内側やや上部のふっくらした部分

様式 I - 3

線維筋痛症 有病者数全国一次調査用紙

記載医師御氏名 _____

記載年月日 2004年 ____月 ____日

1.なし	2.あり	一次性	男 _____ 例 女 _____ 例
		二次性	男 _____ 例 女 _____ 例

記入上の注意事項

- 2003年1年間（2003年1月1日～2003年12月31日）に貴診療科を受診した線維筋痛症の患者数（米国リウマチ学会分類基準・1990年を満たす症例）についてご記入ください。
- 一次性：基礎疾患がない線維筋痛症です。
二次性：基礎疾患（関節リウマチ等）を有する患者が線維筋痛症を発症したものです。
- 全国有病患者数の推計を行いますので、該当する患者のない場合でも「1.なし」に○をつけ、ご返送ください。
- 後日、各症例について第二次調査を行いますのでご協力ください。
- ご住所、貴施設名、貴診療科名に誤りがありましたら、お手数ですがご訂正をお願いします。

2004年2月末日までにご返送いただければ幸いです

2004年3月

診療科 責任者様

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）

線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班

主任研究者 西岡 久寿樹

（聖マリアンナ医科大学難治研）

疫学調査担当 松本 美富士

（山梨県立看護大学短大部人間健康科学）

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

特定疾患の疫学に関する研究班

主任研究者 稲葉 裕

（順天堂大学医学部衛生学）

疫学調査担当 玉腰 暁子

（名古屋大学大学院医学系研究科）

拝啓

早春の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、過日、厚生労働省からの要請を受け、わが国における線維筋痛症の実態を把握するため、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）「特定疾患の疫学に関する研究班」と（特別研究事業）「線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班」との共同研究による全国疫学調査のご依頼を致しましたが、未だご回答をいただいております。

つきましては、ご多忙中のところ誠に恐縮に存じますが、できる限り正確な調査をいたしたく、過去1年間（2003年1月1日～2003年12月31日）における貴診療科における該当疾患患者数を同封の葉書にご記入の上、ご返送くださいますようお願い申し上げます。なお、線維筋痛症の患者数については同封の米国分類基準を満たす症例数（基礎疾患のない一次性線維筋痛症、および関節リウマチ等の基礎疾患に伴う二次性線維筋痛症の両者の患者数）について記入下さい。

また、該当する患者がない場合も、全国の患者数推計に必要ですので、葉書の「1. なし」に○をつけ、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

該当する患者ありの場合には、後日個人票をお送りさせていただきますので、あわせてご協力くださいますようお願い申し上げます。

この件に関しましてご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

また、本状と行き違いにご回答をいただいている場合には、失礼をお許しください。

何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学教室気付
特定疾患の疫学に関する研究班 全国疫学調査事務局
電話：052-744-2132
FAX：052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ先：〒400-0062 甲府市池田1-6-1
山梨県立看護大学短期大学部人間・健康科学
線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班
疫学調査担当者 松本 美富士
電話：055-253-9249 (dial in)
FAX：055-253-9249
E-mail：ymatsumo@ycn.ac.jp

様式 I - 5

線維筋痛症 有病者数全国一次調査用紙

記載医師御氏名 _____

記載年月日 2004年 ____月 ____日

1.なし	2.あり	一次性	男 _____ 例 女 _____ 例
		二次性	男 _____ 例 女 _____ 例

記入上の注意事項

- 2003年1年間（2003年1月1日～2003年12月31日）に貴診療科を受診した線維筋痛症の患者数（米国リウマチ学会分類基準・1990年を満たす症例）についてご記入ください。
- 一次性：基礎疾患がない線維筋痛症です。
二次性：基礎疾患（関節リウマチ等）を有する患者が線維筋痛症を発症したものです。
- 全国有病患者数の推計を行いますので、該当する患者のない場合でも「1.なし」に○をつけ、ご返送ください。
- 後日、各症例について第二次調査を行いますのでご協力ください。
- ご住所、貴施設名、貴診療科名に誤りがありましたら、お手数ですがご訂正をお願いします。

できるだけ早くご返送いただければ幸いです

診療科 責任者様

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）

線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班

主任研究者 西岡 久寿樹

（聖マリアンナ医科大学難治研）

疫学調査担当 松本 美富士

（山梨県立看護大学短大部人間健康科学）

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

特定疾患の疫学に関する研究班 主任研究者 稲葉 裕

（順天堂大学医学部衛生学）

疫学調査担当 玉腰 暁子

（名古屋大学大学院医学系研究科）

拝啓

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

先般、線維筋痛症の全国疫学調査（一次調査）につきまして、貴診療科のご協力をお願い申し上げましたところ、ご多忙中にもかかわらずご協力をいただき誠にありがとうございました。

二次調査は原則として全国の病院から報告を頂いた患者全員に対して行うこととなっておりますが、今回一次調査で多数症例の報告を頂いた診療科もあり、一次調査で報告された線維筋痛症患者全員について二次調査をお願いすることは先生方に大変なご負担をお掛けすることになります。そのため、20例以上ご報告頂いた診療科につきましては報告患者の約半数（1/2）を対象として行うことと致しました（抽出法等は別紙1・2参照）。20例未満のご報告を頂いた診療科につきましては全患者を対象と致します。

ご回答に基づきまして、第二次調査個人票を同封致しました。重ねてのお願いで誠に恐縮でございますが、昨年1年間（2003年1月1日～2003年12月31日）の貴診療科における線維筋痛症の受診患者症例につきまして、個人票に可能な範囲でご記入いただき、別紙2.抽出状況調査表（黄色）とあわせて7月末日までにご返送いただきますようお願い申し上げます。個人票の記載内容に関しましては、個人の秘密は固く守り、患者の皆さまへの直接の問い合わせはいたしません。

また、匿名化のために、貴院のカルテ番号は個人票には記載せず、同封の【第二次調査個人票の“調査対象者番号”とカルテ番号対応表】（水色）にご記入いただき、個人票には対応する“調査対象者番号”のみをご記入下さいますようお願いいたします。なお、お手数ですが、対応表は貴院にて12月末日まで保管いただきますようお願い申し上げます。保管期間を過ぎましたら、シュレッダーにかけるなどお取り扱いにご注意の上、破棄いただいで結構です。

先生方には多大なご負担をおかけすることとなり、誠に恐縮でございますが、二次調査についても、何卒ご協力下さいますようよろしくお願い申し上げます。なお、本調査は聖マリアンナ医科大学の倫理委員会の承認を得て実施しています。

この件に関しましてご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。
何卒ご協力のほど、お願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学教室気付
特定疾患の疫学に関する研究班 全国疫学調査事務局
電話：052-744-2132 F A X：052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ先：〒400-0062 甲府市池田1-6-1
山梨県立看護大学短期大学部人間・健康科学
線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班
疫学調査担当者 松本 美富士
電話・F A X：055-253-9249 (dial in)
E-mail: : [ymatsumo@yecn.ac.jp](mailto:yamatsumo@yecn.ac.jp)

線維筋痛症患者の抽出法 (別紙 1)

一次調査でご報告頂いた 2003 年 1 月 1 日から 2003 年 12 月 31 日の間に貴診療科を受診された線維筋痛症患者が 20 例以上あった場合は約半数の患者について二次調査をお願い致します。20 例未満の場合は全て二次調査票にご記入をお願いいたします。

今回、貴診療科を受診した線維筋痛症の約半数を無作為に抽出するために、患者の生年月の「出生月」を用いる抽出法を採用いたしました。

ある患者の生年月の「出生月」が、

奇数の場合(1,3,5,.....11 月)→その患者について二次調査票に記入し、お送り下さい。
偶数の場合(2,4,6,.....12 月)→その患者についての記入は不要です。

抽出の状況については抽出状況調査票(別紙 2、黄色)にご記入の上、二次調査票とともにご返送下さい。二次調査票が不足する場合はご連絡頂ければ幸いです。二次調査票はコピーして使用して頂いても差し支えありません。

また、二次調査に該当する患者がいない場合(患者の生年月の「出生月」が全員偶数の場合)も、抽出状況調査票(別紙 2、黄色)にその項(患者数*人、抽出数 0 人等)をご記入の上、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

No. ~

科番号 - 規模 - 整理番号

線維筋痛症 抽出状況調査票

線維筋痛症患者数

うち抽出数(二次調査票報告数)

20 人

人

抽出数0の場合もご返送下さい。

線維筋痛症 有病者数全国一次調査用紙

記載医師御氏名 _____

記載年月日 2004年 ____月 ____日

1.なし	2.あり	一次性	男 _____ 例
			女 _____ 例
		二次性	男 _____ 例
			女 _____ 例

記入上の注意事項

- 2003年1年間(2003年1月1日~2003年12月31日)に貴診療科を受診した線維筋痛症の患者数(米国リウマチ学会分類基準・1990年を満たす症例)についてご記入ください。
- 一次性:基礎疾患がない線維筋痛症です。
二次性:基礎疾患(関節リウマチ等)を有する患者が線維筋痛症を発症したものです。
- 全国有病患者数の推計を行いますので、該当する患者のない場合でも「1.なし」に○をつけ、ご返送ください。
- 後日、各症例について第二次調査を行いますのでご協力ください。
- ご住所、貴施設名、貴診療科名に誤りがありましたら、お手数ですがご訂正をお願いします。

2004年2月末日までにご返送いただければ幸いです

2004 年 6 月

診療科 責任者様

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）

線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班

主任研究者 西岡 久寿樹

（聖マリアンナ医科大学難治研）

疫学調査担当 松本 美富士

（山梨県立看護大学短大部人間健康科学）

厚生労働省厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

特定疾患の疫学に関する研究班 主任研究者 稲葉 裕

（順天堂大学医学部衛生学）

疫学調査担当 玉腰 暁子

（名古屋大学大学院医学系研究科）

拝啓

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

先般、線維筋痛症の全国疫学調査(一次調査)につきまして、貴診療科のご協力をお願い申し上げましたところ、ご多忙中にもかかわらずご協力をいただき誠にありがとうございました。

ご回答に基づきまして、第二次調査個人票を同封致しました。重ねてのお願いで誠に恐縮でございますが、昨年 1 年間（2003 年 1 月 1 日～2003 年 12 月 31 日）の貴診療科における線維筋痛症の受診患者症例につきまして、個人票に可能な範囲でご記入いただき、7 月末日までにご返送いただきますようお願い申し上げます。個人票の記載内容に関しましては、個人の秘密は固く守り、患者の皆さまへの直接の問い合わせはいたしません。

また、匿名化のために、貴院のカルテ番号は個人票には記載せず、同封の【第二次調査個人票の“調査対象者番号”とカルテ番号対応表】（水色）にご記入いただき、個人票には対応する“調査対象者番号”のみをご記入下さいますようお願いいたします。なお、お手数ですが、対応表は貴院にて 12 月末日まで保管いただきますようお願い申し上げます。保管期間を過ぎましたら、シュレッダーにかけるなどお取り扱いにご注意の上、破棄いただいで結構です。

先生方には多大なご負担をおかけすることとなり、誠に恐縮でございますが、二次調査についても、何卒ご協力下さいますようよろしくお願い申し上げます。なお、本調査は聖マリアンナ医科大学の倫理委員会の承認を得て、実施しています。

この件に関しましてご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

何卒ご協力のほど、お願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学教室 気付
特定疾患の疫学に関する研究班 全国疫学調査事務局
電 話：052-744-2132 F A X：052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ先：〒400-0062 甲府市池田 1-6-1
山梨県立看護大学短期大学部人間・健康科学
線維筋痛症の実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班
疫学調査担当者 松本 美富士
電 話・F A X：055-253-9249 (dial in)
E-mail: ymatsumo@ycn.ac.jp

医療機関控え用

線維筋痛症 全国疫学調査

【 第二次調査個人票の“調査対象者番号”とカルテ番号対応表 】

記載者御氏名

、「第二次調査個人票」投函日：2004 年 月 日

調査対象者番号	カルテ番号	氏名	性別	生年月日
1			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
2			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
3			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
4			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
5			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
6			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
7			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
8			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
9			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
10			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
11			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
12			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
13			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
14			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
15			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
16			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
17			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
18			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
19			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
20			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日

 ※この通し番号を、第二次調査個人票の“調査対象者番号”欄にご記入下さい。

この対応表は、個人票の記入内容について後日お問い合わせさせていただく必要が生じた場合に、カルテ番号を同定するために必要ですので、2004年12月末日まで貴院にてカギのかかるところに保管して下さいますようお願い申し上げます。保管期間経過後はシュレッダーにかける等お取り扱いにご注意の上、破棄いただいで結構です。

調査対象者番号	カルテ番号	氏名	性別	生年月日
21			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
22			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
23			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
24			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
25			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
26			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
27			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
28			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
29			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
30			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
31			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
32			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
33			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
34			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
35			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
36			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
37			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
38			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
39			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
40			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
41			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
42			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
43			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
44			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
45			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
46			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
47			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
48			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
49			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日
50			男・女	(M・T・S・H) 年 月 日

様式 I -11

線維筋痛症全国疫学調査 第二次調査個人票

厚生労働科学研究特別研究事業

「線維筋痛症実態調査に基づいた疾患概念の確立に関する研究班」

貴院施設名

所在地

厚生労働科学研究難治性疾患克服事業 「特定疾患の疫学に関する研究班」

記載者御氏名

記載年月日: 2004年 月 日

担当科名: 1.内科 2.心療内科 3.リウマチ科 4.神経内科 5.小児科 6.整形外科 7.精神科 8.その他 ()

この票は実態把握のためにのみ使用し、個人の秘密は厳守します。該当する番号を選択(複数回答可)、又はご記入下さい。

調査対象者番号 (別紙: 対応表参照)	性別 1.男 2.女	生年月	{1.明治 2.大正 3.昭和 4.平成} ()年()月	
		現在の年齢()歳	患者の現住所 1.()都道府県 2.不明	
診断	1.一次性(基礎疾患のない線維筋痛症) 2.二次性(関節リウマチなどの基礎疾患に発症した線維筋痛症) → 基礎疾患: [a.関節リウマチ b.他のリウマチ性疾患()] c.その他:()			
合併症	1.なし 2.あり() 3.不明			
家族歴(同症)	1.なし 2.あり [統柄: a.父 b.母 c.兄 d.弟 e.姉 f.妹 g.子 h.その他()] 3.不明			
医療費の公費負担	1.なし 2.あり [a.特定疾患治療研究費() b.その他()] 3.不明			
推定発症時期	(1.昭和 2.平成) 年 月頃	診断時期	(1.昭和 2.平成) 年 月頃	
貴施設初診年月	(1.昭和 2.平成) 年 月頃	入院回数	1.貴施設()回 2.他施設()回 3.不明	
初診施設	1.貴施設()科 2.他施設()病院、()科 3.不明			
診断施設	1.貴施設()科 2.他施設()病院、()科 3.不明			
貴診療科受診までに受診した医療機関数	()施設、 受診科: →	1.内科 2.心療内科 3.リウマチ科 4.神経内科 5.小児科 6.整形外科 7.精神科 8.その他() 9.不明		
確定診断までの診断名	()			
他のリウマチ性疾患診断基準満足(一次性症例)	1.なし 2.あり(疾患名:) 3.不明			
受療状況(最近1年間)	1.主に入院 2.主に通院 3.入院と通院 4.転院(転院先:) 5.死亡 6.その他() 7.不明			
現在の病状 (最終受診時) *発症時(診断時)と比較	1.治癒 2.軽快* 3.不変* 4.悪化* 5.不明 6.死亡 →		最終受診日:平成()年()月()日 平成()年()月()日 剖検の有無: 1.なし 2.あり 3.不明、 死因:()	
現在の日常生活状況	1.通常通り 2.ほぼ通常通り(時に支障) 3.仕事、学業、家事に時々支障(月に数回以内) 4.仕事、学業、家事に支障(毎週) 5.仕事、学業、家事ができない(ほぼ毎日) 6.寝たきり 7.不明			
休職・休学	1.なし 2.あり(合計期間: 年 月間) 3.不明			
既往歴	1.なし 2.あり() 3.不明			
手術歴	1.なし 2.あり(手術名:) 3.不明			
外傷歴	1.なし 2.あり(部位:) 3.不明			
発症時の喫煙状況	1.非喫煙 2.喫煙(本/日) 3.不明	発症時の飲酒状況 1.非飲酒 2.飲酒(合/日) 3.不明		
発症様式	1.急性(感染症様症状: a.なし b.あり c.不明) 2.亜急性 3.潜伏性 4.不明			
発症を引き金	1.なし 2.あり → 3.不明	a.疾患:()、 b.ライフイベント:(1.結婚 2.離婚 3.転居 4.就職 5.失業 6.家族の死 7.その他:)		
症状増悪の誘因	1.なし 2.あり(a.気象の変化 b.身体活動 c.精神的環境 d.その他:) 3.不明			
圧通点の合計(米国リウマチ学会分類基準による)	診断時: 1.()/18カ所 2.不明、 現在: 1.()/18カ所 2.不明			

臨床症状(発症から現在まで): 以下の項目について〔1.なし・2.あり・3.不明〕のいずれかの番号を選択。

全身痛	{1・2・3} 2の場合 → (a.右上半身 b.左上半身 c.右下半身 d.左下半身 e.軸部)
関節痛	{1・2・3} 2の場合 → (部位: a.顎 b.肩 c.胸鎖 d.肘 e.手 f.手指 g.股 h.膝 i.足 j.足趾)
関節の過伸展	{1・2・3} 2の場合 → (部位: a.顎 b.肩 c.胸鎖 d.肘 e.手 f.手指 g.股 h.膝 i.足 j.足趾)
筋肉痛	{1・2・3} 2の場合 → (部位: a.顔面 b.項頸部 c.胸部 d.腹部 e.背部 f.上肢 g.下肢 h.腰臀部)
その他軟部組織の疼痛	{1・2・3} 2の場合 → (部位: a.右上半身 b.左上半身 c.右下半身 d.左下半身 e.軸部 f.その他:)